

月	栽 培 管 理
12	【整枝剪定】 骨格の剪定：一文字整枝を基本にする。主枝・亜主枝を明確にする。 古い側枝（結果母枝）の更新：先追いしないよう亜主枝、主枝に近づける切り戻し更新を行う 結果母枝の配置：充実した新梢と本年の結果枝を併用する。春の風害を想定してやや多めに残す。 大きい切口にはトップジンMペーストをその日のうちに塗る。
3	【春肥施用】 （3月中旬） キウイ配合 100kg/10a
5	【摘 蕾】 （5月上旬～中旬） 早期に側花と変形花を除去し、授粉効率と初期肥大を良くさせる。 【受 粉】 （5月中旬～下旬） 花粉の石松子の希釈倍率は5～10倍が良い。開花2～3日までに授粉する。 液体受粉は、専用液剤を用いてハンドスプレーで行う。
6	【荒 摘 果】 （6月上～中旬） 果実肥大促進のため、できるだけ早く行う。 奇形・扁平・傷・病害・小果は優先的に除去する。 【夏肥施用】 （6月上旬） キウイ配合 80kg/10a
7	【仕上げ摘果】 （6月下～7月上中旬） （方法）適正量は調整 25～30果/m ² 。 1m ² 当たり25着果を目標に摘果する。 奇形果、傷果、小玉果から摘果する。 摘果する目安は、 短果枝＝10～20cmまでの枝＝（1果） 中果枝＝20～40cmまでの枝＝（2～3果） 長果枝＝ 40cm以上の枝＝（3～4果） だが、短果枝でも初期肥大良好であれば複数果着果してよい。 【夏季剪定】 （6月中旬～7月上旬） 夏季剪定は、あまり、明るくしすぎないようにする。遅く発生した徒長枝の剪定。発育枝が発生している部分の切り返しを行う。晴天の日で土の表面にところどころ、日が射す程度の明るさを維持する。
8	【乾燥防止対策】 初期肥大の時期には土壌を乾燥させないようにする。（敷きわら・灌水）
9	【秋肥施用】 キウイ配合 100kg/10a 果実の後期肥大と樹勢回復のために2回に分けて施す。 9月中旬 60% 10月中旬 40%
11	【収 穫】 11月上中旬以降で強い霜が降りる前までに、果実が温まらないように注意して収穫する。 選別後は速やかに低温庫へ搬入する。 ※収穫は果実温の高い時は行なわない。収穫した果実は直射日光に当てず、少しでも軟化している果実は混入させないようにする。（早期軟果の原因）
12	【石灰の施用】 11月～2月に土壌改良剤で苦土石灰の施用をしておく。 100kg～200kg/10a